

地区だより—北から南から—



平成二十七年年度の活動概要

北海道稲門教育会会長
北海道札幌西高等学校長

前川 洋



創立三十七年目を迎えた北海道稲門教育会の会員は、現在、一四五人を数え、そのうちの約七一名の現任教員が全道各地の高等学校及び北海道教育委員会等で活躍しています。陸続きであっても、札幌市から四〇〇キロ近く離れた地域もあり、広大な大地です。全国の天気予報で北海道が暴風雪に見舞われると報道されても、晴れ間が見える地域もあり、北海道地方の天気を一括りにしないではないかと思うことがあります。

さて、北海道稲門教育会では、年二回の集まりを札幌市で開催しています。一つは、冬期休業中の一月上旬に、全道の高等学校の教員等が研修を行う北海道高等学校教育研究大会に合わせて開催する「総会・教育懇談会」です。例年、早稲田大学からも参加していただき、大学の現況等を説明

していただいております。今年は、OB・現役会員・教育関係者を合わせて二八名の参加となりました。この時に合わせて、「早稲田学報」の北海道教職版の意味を込めて平成二年に創刊された「北海道稲門教育会会報」の最新号が配布されます。これにより、全道各地で活躍している会員諸兄の近況を知ることができます。

もう一つは、「夏期研修会」を夏期休業中に開催しております。先生方が参加しやすいよう、今年度から八月上旬に開催時期を変更しました。毎回、早稲田大学関係者や本道実業界の方々による講演を行い研修を深めています。今年度は、国の教育改革が急速に進んでいることから、国や道の教育の動向について理解が深まるよう、北海道教育庁村田教育指導監を講師にお招きし、開催しました。当日は、二八名の先生方の参加を得ることができ、研修と親睦を深めることができました。

本会の会員数は、年々減少し、憂慮すべき状況です。早稲田を卒業して教員となる若者がほとんどいません。そもそも本道出身の早稲田の学生が減少傾向にあります。本会をはじめ本道の行く末が心配です。教育に関わる私たちの



平成27年度稲門教育会総会・懇親会
平成28年1月7日(木) ホテル札幌ガーデンパレス・スピカにて

平成二七年度茨城県稲門教職員会報告

茨城県稲門教職員会会長

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校長

野内俊明

力で、まずは、都の西北を目指す生徒を増やすよう、道外でチャレンジしたいと思う進取の精神を持つ生徒を育てなければなりません。さらに、子どもたちに、早稲田大学の良さを知ってもらおう努力も必要と考えます。そのため、本会会報に、校長講話や授業のネタと

なる早稲田ラグビーの逸話を載せ、会員に広めるようお願いしたところです。

北海道稲門教育会といたしましては、今後とも、活発な活動を推進し、早稲田大学稲門教育会の北極星となって輝き続けたいと思っています。

本会は、平成二〇年一〇月に再結成され、八年目を迎えるうとしている若い組織です。平成二七年度の会員は、四〇名です。早稲田出身の小学校・中学校・高校の管理職に加え、行政機関に勤務する職員で構成されています。年に一回の総会、研修会、懇親会を実施しております。研修会には、毎年大学からの来賓の方をお招きして盛大に開催してきました。懇親会の最後には、必ず全員で「都の西北」を声高らかに斉唱しています。日々の忙しさに翻弄されている中で、このようなひとときは、一服の清涼剤となり得る機会になっております。

ここ数年の課題は、会員の自然減少にどう対処していくかでした。再結成された平成二〇年当時は、五三名の会員がおりましたが、年を追うごとに定年退職され、新たな会員の入会が少なく、平成二七年度は四〇名まで減少しました。さらに、今年と来年で一一名が退職予定で、二年後には一気三〇名を割り込むこととなります。このような中、平成二七年六月に、水戸市内に勤務する若手教員から稲門教職